

(議事について、事務局より説明)

議題 1 2025 (令和 7) 年度かながわ文化芸術振興計画 年次報告書 (素案) について
事務局から資料 1、資料 1 別紙 1、別紙 2 について説明後、次のとおり審議を行った。

○伊藤会長

これまでは、年次報告書の中で、重点施策を中心に説明をされていたところ、今回は別紙を 2 つつけてもらい、非常に幅広く活動が行われていることが一目でわかる。同時に、計画における基本的な施策と重点施策の関係も見える形となっており、所管課もわかるようになっている。これを踏まえ、年次報告書における取組の成果についてなど、ご意見、ご質問等あればお願いしたい。

まず私から一言申し上げると、新規事業が別添資料でよくわかるようになっているが、主に重点施策 4 と 5 が多い。重点施策 4 に関しては、国際観光関係であるが、リニアや GREEN×EXPO 2027、ダンス、バレエが入っている。また重点施策 5 では、環境整備ということで、これは県民ホール本館が建替えとなり、その間に様々な形で外部での活動をしたり、市町村と連携したりしている。こういった点が新規事業の特徴だと思うが、新規事業のみならず、従来の活動についても変化があると思う。

年次報告書の 2 ページや 3 ページのところに、全体のまとめが入っている。特に総括については、さがみはらリニア開放区やさがみはらリニアフェスタの記載があるが、リニア関係の話は今まで審議会場であまり話題になっていなかったため、唐突に出てきたという印象もあるが、そういった点も含めて、お気付きになった点や指摘があればお願いしたい。

○山田委員

重点施策 4 の国際観光分野の連携について、最初の課長からの挨拶の中にも GREEN×EXPO 2027 の話があったが、今回の新規事業でもあるため、せっかくであれば、この冒頭のところで一言コメントが入った方がいいと考える。記載をしなかったのは何か意味があるのか。

○事務局 (大島文化課長)

外した理由は特段ない。重要な取組であることは間違いがないため、記載を検討したい。

○伊藤会長

令和 7 年度の取組に関する記載であり、GREEN×EXPO 2027 は来年から本格的に開始するため、前年度は大きな動きがなかったかもしれないが、別紙の方には新規として入っているので、必要に応じてこの辺りを追記してもいいと考える。

各重点施策について、特に施策の効果や今後の課題、方向性などについての意見や、強化すべき点、不足している取組などの意見はあるか。また、昨年度の活動の総括に関して、他に記載すべき活動があるかといった視点でも何かあれば発言願いたい。

○山田委員

2点質問させていただく。まず1点目は、6ページ目の施策の効果であるが、前回の審議会でも大幅に増えたという報告があったと記憶している。せっかくであれば、この大幅に増えた理由が入った方がわかりやすいのではないか。

2点目は、10ページに高齢者、障害者等へのアウトリーチについて記載があるが、この文章ではどれがアウトリーチに当たるのかが少しわかりづらいと思う。具体的に何を指しているのかももう少しわかりやすい記述があった方がいいと考える。

○事務局（大島文化課長）

今の御指摘を踏まえ、わかりづらい記述等については整理させていただきたい。

○伊藤会長

毎年感ずることだが、この年次報告書を見ると、演劇を中心とした記述となっており、美術や文学といったものの記述が弱い気がする。特に美術に関しては所管課が教育委員会の生涯学習部になっているため、それも影響するかもしれないが、様々な活動をされているため、そのあたりも書いていただいてもいい気がする。

○事務局（大島文化課長）

美術に関しては、伊藤会長からお話があった通り、教育委員会が美術館を所管している。しかし、文化課でも神奈川県美術展を開催しており、昨年度については、県民ホール本館が休館になった関係で、神奈川県美術展の本展は休止となったものの、中高生特別企画展は鎌倉芸術館で開催した実績があり、今年度は2月に開催を予定している。確かに、全体的に見ると、舞台関係の記述が多い傾向にあり、KAAT 神奈川芸術劇場や青少年センターなど、舞台の活動場所が多いということもあって、事業の数が増えている。美術は文化芸術の中でも非常に重要な項目の一つであるので、記述が若干少ない点については、検討したい。

○蜂飼委員

3ページの総括について、目に留まったことがある。県民ホールが現在休館中であることを踏まえ、県内各地で、これまで県民ホール本館で実施されてきた公演等が開催されているという記述がある。私自身が神奈川県の県央地域在住ということもあり、特に目に留まった。リニア神奈川駅駅の工事現場を活用するということや、相模湖地域でのバレエ公演が実施されたとのことだが、この審議会でも度々話題があったように、これまで横浜市を中心として文化芸術活動が活発に行われる状況が従来あったかと思う。しかし、今回の総括を拝見すると、特に県央地域でもこうした活動が行われ、開催の機会、あるいは文化芸術に県民が触れる機会の提供が、県内の別の地域にも分散していくような状況が読み取れ、良い傾向だと

思った。

○石田委員

3 ページの総括にリニアに関する記述があるが、資料 1 の別紙 1 や別紙 2 ではどこに当たるのか教えていただきたい。また、資料 1 別紙 2 の 4 ページ一番下に「音楽堂の利用に関するプログラムほかアーカイブ資料の保管とデジタル化」とある。これは指定管理者が実施している事業だと思うが、このアーカイブというのが、現在、国の施策においても非常にクローズアップされており、注目したいと思った。これは指定管理料の中で指定管理者が実施しているものなのか、もしくは文化課が実施しているものなのか教えていただきたい。

感想であるが、様々な目配りをして、幅広く事業を展開されていると、この資料を見て感じた。しかし、新規と記載された事業がやはり舞台芸術や、県民ホール、GREEN×EXPO 2027 が中心になっている。例えば、「伝統的な文化芸術の保存、継承、活用」の辺りに新機軸というのは見当たらないが、新規のものがないから問題だという指摘ではなく、この辺りは継続して実施されているのだと感じた。

○事務局（今田文化創造 GL）

リニアについて、資料 1 の別紙 1 及び別紙 2 のどこに位置づけているのかという御質問であるが、現在、資料には記載がない状況である。リニアは重点施策 4 の国際観光分野との連携というところに位置づけることになろうかと思うが、この計画との関係が現時点で未整理となっており、今後いただいた御意見を踏まえて整理し、位置づけることとしたい。

○事務局（浮津文化企画 GL）

アーカイブ資料の保管は、指定管理料を財源とする指定管理業務となっている。

○中村委員

石田委員と同様の意見があり、リニアに関する記載を確認すると、資料 1 の 3 ページの総括において、さがみはらリニア開放区及びさがみはらリニアフェスタが書かれている。資料 1 の 35 ページ「施策実施事業一覧」の上から 3 つ目のさがみはらリニアフェスタ、57 ページの一番上の再掲は確認できたが、さがみはらリニア開放区がどういったものなのか、説明はどこかに記載があるか。総括にさがみはらリニア開放区という名前が出ているが、その説明がないという点は修正すべきである。重点施策 4 になるであろうと思いつつ、それが明記できないという諸事情があっても、事業一覧の方では確認できるようにしておくべきである。

○事務局（田北主幹）

類似の話にはなるが、資料 1 の 16 ページ「重点施策の実施状況」の重点施策 5 「文化芸

術の振興を推進するための環境整備」の部分の上から6行目以降に、「県庁前や県内各地の商業施設等を活用して、音楽やダンス等を自由に発表し、観賞できる機会を提供する『かながわパフォマ開放区』を実施し、地域の活性化を図るとともに、県民の文化芸術の活動を後押しした」という記述がある。このかながわパフォマ開放区の内容を、リニアの工事現場で実施したのが、さがみはらリニア開放区である。しかし、御指摘の通り、リニア開放区の内容について、具体的な記載がないこと、位置づけについては改めて精査し、記載場所や記載の考え方などは整理したい。

○中村委員

位置づけが難しい場合は、かながわパフォマ開放区の後に、さがみはらリニア開放区を併記するだけでもいいと思う。障りのない範囲でわかるように説明を記載いただきたい。また、パフォマ開放区がマグカル開放区のマイナーチェンジであるという点も、混乱する方もいると思うので、その辺りも短く説明が入るとありがたい。

○事務局（大島文化課長）

中村委員からの御指摘の通りであると思うので、総括の記載については全体的に見直しをしたい。

○伊藤会長

では、この総括については内容を整理し、読んだ方が疑問に思わないようにしていただきたい。計画を作る際にはっきりしなかったものが、現実動き出したという部分があると思う。GREEN×EXPO 2027についても、いつこのような話が生まれていたのか、計画策定時に全くなかったのか、今後のこともあるため、留意していただきたい。

○塚田委員

重点施策4の国際観光分野との連携というところで、資料1の3ページに第9回アフリカ開発会議に向けた、県民へのアフリカ理解を促進する事業を実施したと大きく打ち出されている。資料1別紙1を拝見し、国際課が実施していると知り勉強になった。商業施設でイベントを行ったとのことだが、これはいわゆる単発のイベントとして行ったものなのか。どのレベルのことだったのか知りたい。先日新聞などで報じられていたが、現在外務省が日本とアフリカとの関係を強化しようと力を入れているという背景がある中での開催であったと思うし、これからアフリカ諸国の留学生を日本に送り込むなど、交流を外務省あるいは経済産業省が力を入れていくという話があるので、そういったことと関係があるのか。神奈川県は外国籍の方が多いが、アフリカ大陸がルーツの方に注目するような動きがあるのかと想像しながら見ていた。

○伊藤会長

今まで神奈川県が力を入れてきたのはベトナムが多く、年次報告書にもそのような記述があったり、あるいは中国の三県省道に関することが多かったりした。アフリカフェアは昨年に第9回アフリカ開発会議が横浜で開かれたということがあったため、臨時で行われた事業なのか、今後のアフリカとの友好関係も含めて、継続していくものなのか、検討していることなどがあればお願いしたい。

○事務局（大島文化課長）

アフリカ開発会議が横浜の方で開催され、その関連イベントである。伊藤会長からお話があった通り、ベトナムとは交流を続けているが、昨年度は横浜市でアフリカ開発会議が開催されたこともあり、アフリカフェアを行った。国際課から詳細を確認できていないが、恐らくこれを継続的に毎年実施してはいないと思われる。今後の展開については、予算等の関係もあるため、国際課に確認させていただければと思う。

○平野委員

資料の3ページに「県民ホール本館の建替えに向けて、基本構想策定委員会を設置し、各分野の専門家等による…」という記載があるが、各分野という部分を、どういった人が関わっているのか分かりづらいため、専門分野についてもう少し具体的な名前を挙げていただけるといいのではないかな。

○事務局（宮崎県民ホール再整備担当課長）

御指摘の通り、どのような分野の方が策定委員会に入っているか分かりづらいと思う。例えば、舞台芸術の方や文化政策の分野、技術の分野、そういった有識者の方に参画頂いた。全てを列挙できないと思うが、例示列挙することは可能であると考えてる。

○石田委員

3ページの総括について、人生100歳時代が到来するであるとか、共生共創事業でも共生社会という要素が含まれている一方で、重点施策2の「子ども」や「若者」という言葉が一言も入っていない。伝統芸能、共生社会、国際観光、園芸博のことなどが書きこまれているが、重点施策2についても、並列して書いていただいてはいかがだろうか。「年齢や障害などにかかわらず」に含まれているということで理解してもよいとはいえ、これだけ多く事業をやっているから一言、子どもや若者という言葉があったらよいと思う。

○伊藤会長

今の石田委員の意見は重要だと思う。特に子ども、若者については、文化芸術振興計画で新たに柱としてまとめられたものであり、総括にそれに関する記述がないのは相応しくな

と思うため、ぜひそこは入れていただけるようお願いしたい。

○事務局（大島文化課長）

今の御指摘は非常に重要なところで、県でも子ども、若者の施策に非常に力を入れている。これは神奈川県だけではなく、全国的に、子ども食堂の問題やひきこもりの問題等が、話題になっているところであり、重点的に力を入れている。県全体の政策の方向性を示すという点でも、その記載はあった方がいいと思うため、入れるよう検討させていただきたい。

○伊藤会長

ここまで挙がった御意見や御質問等を整理し、最終的なまとめは、事務局と私の方に任せていただきたい。

では続いて報告事項に移る。まず、「GREEN×EXPO 2027」の開催に向けた取組について、事務局から説明をお願いします。

報告事項（1）「GREEN×EXPO 2027」の開催に向けた取組について
事務局から資料2について説明後、次のとおり質疑を行った。

○伊藤会長

この件について御意見や御質問のある方はいらっしゃるか。

○中村委員

GREEN×EXPO 2027 が終わった後の主催事場はどうなるのか。

○事務局（今田文化創造 GL）

主催事場は仮設の建築物であり、解体される予定である。主催事場は解体する前提のため、リースの部材で作っており、できるだけ環境に負荷をかけない形で作っていると聞いている。

○井上委員

オリジナルミュージカルについて教えていただきたい。形態として舞台版と映像版があるとのことだが、舞台がどのくらいの回数で、映像がどのくらいの回数といった回数のバランスは決まっているのか。

○事務局（今田文化創造 GL）

具体的な回数は現在調整中であるが、舞台版については、俳優の体力なども考慮し、一日の上演回数は3回程度で、映像版は一日にある程度の回数は上映可能であると考えている。

○蜂飼委員

資料 2 の 12 ページに神奈川県出展についての一次募集結果は、応募総数 200 件で、現在二次募集されているとのことだが、この応募数は事前にどのくらいを想定されていたのか。予想された件数よりも多かったのか、どういった手応えをお持ちなのか。

○事務局（今田文化創造 GL）

件数については、環境農政局が取りまとめており、当課では想定を把握していないが、二次募集では当課の主催事場の募集も行っており、現在何十件か応募いただいている状況である。県の人口は約 920 万人であるため、その規模と比較すると、応募数は少々少ないのではというのが個人的な印象である。

○兼子委員

資料 2 の 7 ページに、県の出展ということで、文化課はステージ出展を担当されるとのことだが、先程の議題において年次報告書にも美術系の記載が少ないのではという意見もあった通り、美術系の関わりが、園芸博の中ではどのように入ってくるのか教えていただきたい。

○事務局（今田文化創造 GL）

今現在の状況としては、ステージ出展として、ミュージカルあるいは文化芸術のイベントを行うのが主な内容となっている。その他、環境農政局も含め、一般催事募集などを行っており、その中で展示などの応募もあるが、美術系については現在のところ園芸博の県出展の中にはほぼ入ってきていないのが実態である。

○兼子委員

ぜひ関係各所に働きかけ、応募に繋いでいただけたらと思う。

○杉山委員

資料 2 の 18 ページに、オリジナルミュージカル以外のコンテンツとして神奈川県高校生フェスティバルがあるが、これは学校単位で時間を設けて開催するのか、具体的なフェスティバルの開催方式があれば教えていただきたい。

○事務局（今田文化創造 GL）

現時点の想定としては、半日に 3 団体ほどの高校生に出演いただき、リハーサルから本番まで行ってもらくことを考えている。半日に 1 団体 30 分程度の演目を 3 つくらい行うものを、会期中に何日か行うようなイメージである。

○石田委員

海外の方も多く来場されると思うが、このミュージカルは字幕等で海外の方への対応をされるのか。

○事務局（今田文化創造 GL）

主催事場には、舞台の後方に 600 インチの大型 LED スクリーンを設ける予定である。セリフや歌詞などについては、全て英語の字幕をスクリーンに出す予定である。

○久野委員

ミュージカルの上演のことについて 2 点教えていただきたい。まず、海外の方の対応をされるということだが、県主催ということで、ともに生きるという言葉があるように、障害者の方や、高齢者の方、子ども向けの対応は考えられているのか。詳細が決まっていないということであれば、ぜひ考えていただきたい。

もう一点は、96 日間の上映の中で、映像だけ流す日もあり、ライブがある日もあり、ということだと思うが、なるべく多くの方に鑑賞いただき、500 人の客席が毎回満席になるといいと思う。チケット販売はどのように行うのか。ミュージカルの鑑賞料は入場料に含まれているのであれば、座席はどのように決まるのか。また、どのようにお客様に入手方法などを告知するのか。過去の大阪万博のことを思い浮かべると、障害者の方も、高齢者の方も、チケットの取得方法が分からなかったという不満が非常に出ており、イベントを一つも見ることができなかったという方が多くいらっしまったと思うので、どのような対応を考えているのか。

○事務局（今田文化創造 GL）

まず、子どもや高齢者の方、障害者の方への参加という点については、主催事場は、車椅子用の席が十席程度用意されており、そこへの動線についてはバリアフリー化されている。また、高齢者や障害者の方々のミュージカル参加については、資料 2 の 17 ページに踊ってみた動画の募集というものがあるが、動画募集をすると同時に、応募があった動画を集めて編集し、作った映像をミュージカル本編の踊りのシーンにおいて、バックの LED 画面に流したいと考えている。このような形で、ミュージカルへの県民参加を図っていきたいが、その一環として、高齢者の皆様、障害者の皆様においては、当日なかなか来場が難しいという方もいらっしまったと思うので、動画に応募していただく形で参加していただけないかと考えている。現在、障害者関係施設や団体等に、この踊ってみた動画への応募について広報、営業しているところである。

2 点目として、チケット販売についてだが、このミュージカル自体は、チケットは無料である。園芸博全体として博覧会に入場する際にチケットが必要になるが、入場してしまえば、

そこから先のパビリオンへの入場は無料という状況である。座席の予約方法などについては、非常に大きな課題だと感じている。博覧会協会の方でも、予約システムを作る話も挙がっているが、予約システムを運用するのか、整理券などの方式にするのかなど、現時点では検討中である。

○平野委員

開催に関して、博覧会協会が96日間、県主催が96日間ということで、開催期間が192日なので、ちょうど半分ずつであるが、一日おきに交代するのか。

○事務局（今田文化創造 GL）

ミュージカルを県が行うにあたり、博覧会協会の作った施設を共同利用するという前提になっており、お金を半々で出し合って、会期中は半々で使うという形になっている。使用するスケジュールについては県と協会でもまだ模様になっており、特にどこかで固まって博覧会協会が使ったり、県が使用したりということはあまりない状況であるが、ミュージカルについては、特に実演の方は土日に実施したいと考えている。

○伊藤会長

博覧会協会の姿が見えてこなかったり、盛り上がりには欠ける印象もあったりと、個人的には心配しているところがあるが、あくまでも文化課は、博覧会の一部を担当するだけの話であろうと思うので、全体の運営については、この場では議論すべきではないため、次の報告事項に移りたい。続いて、神奈川県立県民ホール本館再整備基本計画骨子案について、事務局から説明をお願いします。

報告事項（2）神奈川県立県民ホール本館再整備基本計画骨子案について
事務局から資料3について説明後、次のとおり質疑を行った。

○伊藤会長

この件について御意見や御質問のある方はいらっしゃるか。

○尹委員

資料3の（7）その他にある整備スケジュールの部分だが、具体的にいつ頃から県民ホールが再開できるといった目安は盛り込まれる方向なのか。

○事務局（宮崎県民ホール再整備担当課長）

現段階で具体的にどこまで記載できるかは未定である。県民ホール、産業貿易センター、シルクセンターの三館で、まちづくりについて協議を行っているところであり、どういった

手法で建てるかというのが決まってない段階である。県民ホールだけでは決まらない部分もあるため、協議の進捗次第で、具体的なスケジュールを書けるのか、ある程度幅の持ったスケジュールになるのかというのは決まってくると思う。

○尹委員

本年度末に基本計画の策定がされると思うが、計画が策定された後も、適宜情報を県民向けに発信する必要があると思う。演者の方や団体の方からも、県民ホールは今後どうなるのか、といった質問が私たちのところにもたくさん来ており、そういった丁寧な情報発信をぜひしていただきたい。

○和田委員

建設費について伺いたい。整備スケジュールは長期にわたると思うが、建設費の高騰が続いている中で、どのような考えがあるか。現状で構わないので、意見を伺えればと思っている。

○事務局（宮崎県民ホール再整備担当課長）

建設費の高騰は、市場に逆らうこともできないため、見守ることしかできないとは思いますが、建設事業者やデベロッパーの方等と意見交換する場もあるため、その中で、今後の動向を把握しながら考えていく。試算した建設費が基本構想の中では最大 527 億と書いてあるが、設計に入っていく中で実際の建設費が見えてくると思うので、その際に物価高騰の状況を勘案しながら設計していくと考えている。

○伊藤会長

次の報告事項に移りたい。続いて、公立中学校における部活動の地域展開に係る神奈川県の方針素案について、事務局から説明をお願いする。

報告事項(3) 公立中学校における部活動の地域展開に係る神奈川県の方針素案について事務局から資料 4、資料 4 別紙 1、資料 4 別紙 2 について説明後、次のとおり質疑を行った。

○伊藤会長

この件について御意見や御質問のある方はいらっしゃるか。

○井上委員

この件についてはずっと発言させていただいているが、私はこれまでずっと学校演劇の指導をしていたが、昨年度いっぱい終了し、現在は地域で劇団を作って、区民参加の劇団

を作っており、言わば地域クラブに当たるものを重点的に取り組んでいる。それを踏まえて、また、これまでの経験も踏まえてお話と質問をさせていただく。

私に関わっているのは演劇部であるが、演劇部は基本的に休日の活動はない。特例的に、例えば発表会の前に1回、2回、あるいは学校によっては3回程度、校長の許可のもとで活動している状況である。したがって、基本的な考え方として、休日については原則すべての学校部活動において地域展開の実現を目指す記載があるが、そもそもこの展開すべき活動がないというのが現状である。それはおそらく、演劇部に限らず、活動が盛んな吹奏楽部を除いて、ほぼすべての文化部が休日の活動をしていないのではないかと思う。そうすると、この基本的な考え方、素案にもある休日についての方針は、全体の三分の一を占める部活動に関しては該当しないという状況になるが、その点についてはどのようにお考えか。

○事務局（大島文化課長）

県の方針素案については、まず国のガイドラインが昨年12月に出されており、これをベースにしている。国のガイドラインは、基本的にすべての部活動を地域展開していくという形になっているため、神奈川県だけではなく、全国の都道府県、市町村も同様に、国のガイドラインに沿って計画を考えていると思う。御指摘の通り、文化部で主に休日に活動しているのは吹奏楽部が中心である。また、休日に活動しているのは運動部がほとんどという実態である。しかし、部活動も様々な種類があるという実情があるため、一緒に国の方針ではそのような方向性になっている。

現状休日に活動していない部活動に関しては、特段移行の必要はないと思うが、一方で、国の方では、地域の実情に応じて、将来的には平日においても、部活動を地域展開していく方向性となっている。したがって、それも踏まえ、平日と休日の両方で行っていく必要があると考える。実態として、文化部にはあまり休日の取組が必要ないというのは承知しているが、国の方針に従って、スポーツも包含したうえで、この方針ができているとお考えいただければと思う。

○井上委員

国のガイドラインでは、部活動改革および地域クラブの推進等となっているが、演劇部においては、土日の活動をしていた時期もあった。5年くらい前までは、私も実際に土曜日に指導をしたことが何度もあったが、部活動改革の結果、なくなってきた。一概に地域展開に邁進するというよりは、部活動改革を推進するというのも、神奈川県としては、今の学校の実情と合うのではないか。資料中に、教員が部活動に対して、顧問をやることを負担に感じているとあるが、同時に実態として、運動部も文化部も、9割程度は地域展開ができてない。これを踏まえると、私の推測ではあるが、学校の教員側が、部活動に外部の指導者が積極的に関わることをあまりよしとしていないような空気を感ずる。したがって、どちらかというと、学校の内部に関すること、演劇部が実現したような、吹奏楽部や運動部も含めて、原則、

例えば週3回とし、休日はなしというような原則を作って、それをはみ出した部分を地域に展開していくという方針もあり得るのかなと思う。

○事務局（大島文化課長）

この部活動の地域展開の話は、元々教員の働き方改革から始まっており、取組は市町村が主体とはなるが、県でも、文化スポーツ観光局の文化課とスポーツ課、及び県教育委員会の方と連携しながら取り組んでおり、市町村や学校によっても実情は異なってくるため、情報収集しながら進めている。意欲を持って部活動の顧問をやりたくて教員になられている方もいると思うので、そういった思いは大切にしながら、取り組む必要があると考えている。

○井上委員

資料を見ると、やる気のある教員に対し、地域の中で活動してもらうことを重点的に考えられているが、並行して、逆の視点として、顧問をやりたくないという教員の意志が社会の中で認められる仕組み、例えば、顧問になることを強要された時に相談できる窓口を作るといった姿勢を持つておく方が今後のスムーズな移行につながっていくのではと思う。

○伊藤会長

次の報告事項に移りたい。続いて、文化芸術振興審議会団体助成部会（文化芸術活動団体事業補助金）の実施状況、及び神奈川県マグカル展開促進補助金の採択状況について、事務局から説明をお願いします。

報告事項（4）文化芸術振興審議会団体助成部会（文化芸術活動団体事業補助金）の実施状況、

報告事項（5）神奈川県マグカル展開促進補助金の採択状況について

事務局から資料5-1、5-2、5-3、6-1、6-2について説明後、次のとおり質疑を行った。

○伊藤会長

この2件について御意見や御質問のある方はいらっしゃるか。

○杉山委員

マグカル展開促進補助金について、若い世代への交付がなかったとのことだが、若い世代が交付を受けやすくなるために、重視している事柄というのはどういったものがあるのか。

○事務局（今田文化創造 GL）

この重点事業、若年というのが、ただ若年者であればいいという要件ではなく、「若年者

を文化芸術に携わる人材として育成するための事業」としており、文化芸術に携わる人材の育成のための事業として認定できるかどうか、という事業である。申請については、子どもの劇団、あるいは子どもミュージカルなどの申請はあるものの、文化芸術に携わる人材として、専門人材を育成するという要件に合致する申請がなかなか見られないというのが現状である。

○伊藤会長

今まで二つの補助金があるという話は何回か出ていたが、どのように違うのか等については明快ではなかったところ、今回は比較して、マグカル展開促進補助金の補助金額も大きいのだと思った。これについては今後の審議会の中で、神奈川県補助金のあり方について、両者の役割分担も含めて検討していく必要があると考える。

会長に選ばれた際、アーツカウンシル的なものをもっと検討したいと思っていたが、なかなかその時間がなく、思いが残っているところである。ぜひ今後、審議会委員の方たちの中で、このことを記憶していただいて、アーツカウンシルがいいかどうかは別として、神奈川県の県民の活動、あるいは地域の文化団体に対する、補助・育成、単にお金だけではなく、様々な支援の仕方があると思うので、そういった点も含めても考えていく必要があると思うため、ぜひ今後検討をお願いしたい。

では最後にその他として、参考情報提供について、事務局から説明をお願いする。

その他 参考情報提供について

事務局から参考資料１～５について説明を行った。

○伊藤会長

それでは、これをもって本日の審議を終了する。